

6 探究ゼミ

探究ゼミは国立大学・難関私大の推薦・AO入試受験を目指す生徒を対象に、学び方の基礎学習、課題研究の発表・討論、小論文や英語長文読解と面接練習を実施する自主参加のゼミである。2年次の1月から放課後や長期休業中の補習として実施した。中でも各自関心のある事項を調査・研究し発表・討論する学習の中から、大学で学びたいテーマを探るという課題研究を活動の核とした。今までに、数十冊の本を読み研究内容を数十頁に及ぶレポートにまとめた生徒も何人かいた。過去10年間に163人の生徒が参加し、その内46.0%の生徒が入試まで継続した。以下に、その成果と課題を振り返る。

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	10年
登録	29	16	7	30	13	20	15	22	8	3	163
発表	27	10	5	21	8	13	11	6	6	3	110
最終	13	7	4	17	7	10	6	6	3	2	75
継続率	44.8	43.8	57.1	56.7	53.8	50.0	40.0	27.3	37.5	66.7	46.0

【年度別参加状況】 ※発表：各自の課題研究を発表した生徒、最終：入試まで継続した生徒

1) 年間計画

	講座名	学習内容	期間・回数
1	小論文基礎①	パラグラフ・ライティングの学習、題材：私の好きな人	1月（週1回）
2	志望動機書基礎	志望動機書の学習（合格者の志望動機書分析）	2月（週1回）
3	小論文基礎②	小論文学習（教材：『小論文を学ぶ』山川出版）	3月（全10）
4	英語長文読解	長文を速く読み大意をつかむ練習をする。	3月（全10）
5	課題研究①	各自のテーマを調査・発表・討議する。	5～7月（週1）
6	小論文応用	小論文の添削指導（添削後、互いの小論文検討）	夏休み（全10）
7	課題研究②	各自のテーマの最終発表・討議。	夏休み（全10）
8	志望動機書執筆	志望動機書の作成・添削・発表・討議の学習。	9～10月（週1）
9	推薦入試指導	小論文・英語の演習、面接・プレゼンテーションの練習	10～11月（週5）

※ 一回あたりのゼミは90分で実施

2) ゼミの成果

a) 進路検証

参加者の中には志望学部を変更する生徒もいるがほとんどは貫徹する。生徒たちは大学での研究テーマを明確にして目的をもって大学に入学するので、大学の学習・研究において良い成果を残す。大学のゼミでリーダーとなったり、大学院へ進学して研究を継続・発展させた生徒も数多く出ている。

b) 学び方の学習

大学での活躍もさることながら、就職活動での成功も無関係ではない。卒業生の中には教員、公務員、銀行員などの職種に就いたり、JR、中部電力、ローソン、東京海上日動といった人気のある大手の企業に就職した者も多い。これもかつて培った学びのスキル（調査・まとめ・発表・討論）が就職活動の中で力を発揮したことが影響していると考えられる。

c) 学ぶ意義の再確認

探究活動は普段の授業や学習の意義を生徒が再確認する契機となる。例えば、学校での学習に意義を見出せなかったが、仲間との学び合いの中で学校生活を主体的に捉えられたという生徒もいた。また、ゼミを通じて未開拓な潜在能力・可能性を発見した生徒もいる。

d) 「開かれた学校づくり全国集会」での活躍

平成19年10月に長野県辰野町で行われた全国大会に2人のゼミ生が参加し研究者や実践者の大人に交じって活躍をした。生徒たちは辰野高校の実践の事前調査と当日の見聞にギャップを感じ、その疑問を全体会や分科会で訴え多くの賛同者を得た。また、分科会での議論の火付け役となったことに専門家やマスコミも注目して、大会終了後に様々なインタビューを受けたりその活躍が新聞で報道された。適切な時機に適切な場与えられることで生徒が大人の想像を超える成長をすることができることを実証する機会となった。

e) 推薦・AO入試における高い合格率

過去9年間(H27年度は未定)で推薦・AO入試受験まで継続した生徒が74人、推薦・AO入試で国公立大学または難関私大に合格した生徒が39人(受験者の52.7%)、一般合格も含めた国公立大学または難関私大に合格した生徒が59人(受験者の79.7%)である。

推薦・AO入試の合格率を分析すると、特にAO(AC)入試の合格率が100%(受験者・合格者6人)、志望動機書に課題小論文のある名古屋大学の一次合格率が85.7%(受験者28人、一次合格者24人、教育学部は100%)と、テーマ学習(課題研究)の成果が問われやすい入試ほど合格率が高いことが分かる。

年度	名古屋		筑波			岐阜	愛知教育	都留文科	信州	兵庫県立	岐阜県立	立命館	南山	受験者数	推薦合格	一般合格
	教育	経済	人間	人文	社会	教育	教育	教育	経済	経済	看護	歴史	心理			
18	1	2	1			C1		1						14	6	3
19	1													7	1	5
20	2											①		4	3	1
21	1	2	①	1			C1		1	1	1	①	①	17	11	4
22	2	1			1		1				1			7	6	1
23	1	1									1		①	10	4	3
24		1								1				6	2	2
25	1						1				1			6	3	1
26	1			①							1			3	3	0
27														2	0	
計	10	7	2	2	1	1	3	1	1	2	5	2	2	76	39	

【推薦・AO入試の合格実績】 ※ Cはセンター有推薦、○数字はAO入試合格、一般合格は国公立大のみ

3) ゼミの課題

ゼミを実施していく上での諸課題はすべて「教育課程にゼミをどう位置づけるか」に集約できるといっても過言ではない。こうした探究活動で成功している学校は、他の教育活動や教育環境と機能的に結びついてよい効果をあげていると考えられるからだ。

例えば、生徒の負担の問題。一般入試の受験勉強と両立を図っていかなければならない。参加した生徒の半数以上がやめていくのも両立が難しいと感じるからである。また、偏差値の高い大学に容易に早期合格できることを期待して、ゼミを一種のバイパスととらえている生徒がいることも否定できない。授業や課外活動で培った知識や力を仲間との学び合いの中で高め自らの進路に結び付けていく場として定着する必要がある。(文責：今井雅)

【探究ゼミ参加者の最終発表のテーマ】

平成 18 年度		平成 22 年度	
地域	地域からの挑戦	看護	看護の専門性とは何か
教育	小学校でなぜ英語？	経済	地域経済統合による地球温暖化問題の解決
教育	少年法改正問題	教育	学校と保護者の協力関係～保護者対応マニュアルの是非
社会	報道は何を学んだのか	教育	キャリア教育で育まれる能力
教育	フィンランド教育はなぜ成功したのか	教育	開かれた学校づくり
教育	「学び」から逃走する子どもたち	社会	若者の貧困をなくすには～外国から学ぶべきこと～
経済	東アジア経済共同体	国際	スカーフ問題にみる宗教の対立と共生
教育	フィンランドの特別支援教育	平成 23 年度	
経済	ブランド経済	教育	特別支援教育のあり方
教育	教育基本法「改正」問題	看護	「看護者の倫理綱領」
教育	明日をひらく 30 人学級	薬学	ステロイド・抗アレルギー薬依存問題
教育	学力を問い直す	教育	瑞浪市立中学校統廃合
法学	ジェンダー論	心理	なぜ『ONE PIECE』は幅広い読者の人気を得るか
平成 19 年度		医技	理学療法士の役割と可能性
教育	左利きの矯正はどうあるべきなのか	教育	習熟度別指導
教育	学校教育と社会教育は両立するか、開かれた教育づくり	看護	ナースプラクティショナーの日本導入の是非
経済	ポイントカードの将来性	経済	日本のデフレ対策
教育	多治見市「子ども権利条例」と我々を隔てる壁とは何か	医技	臨床検査技師とチーム医療
教育	部活動の在り方を変えるべきか否か	平成 24 年度	
経済	CMスキップはCMを不要にするか	看護	地域包括ケア
文学	擬音語・擬態語	経済	外国人看護師・介護士の受け入れ
平成 20 年度		経済	日本経済再生と女性労働
教育	P T A と学校の連携による教育、開かれた学校づくり	看護	在宅ホスピスケア
経済	ワークシェアリングの有効性	看護	在宅でのターミナルケア
文学	関羽はなぜ神格化されたか～実在人物の神格化～	教育	大阪維新の会の教育論
教育	日本のいじめ対策としてピア・サポートは有効か	平成 25 年度	
平成 21 年度		教育	いじめ問題の解決
看護	医師不足は医学部の定員を増やすだけで解決できるか	教育	少年法と少年院教育の在り方
教育	新学習指導要領でキーコンピテンシー習得は可能か	教育	少年法改正の是非
教育	学校運営協議会は本当に子どもたちのためになるのか	経済	日本のグローバル戦略の在り方～クールジャパン戦略～
薬学	日本の新薬開発はどうあるべきか～ドラッグラグ問題～	文学	サブカルチャーにおけるトライブ化問題
看護	グリーフケアの在り方	看護	出生前診断
教育	新学習指導要領と「子どもの視点の学習」への転換	平成 26 年度	
経済	フェアトレードは自由貿易体制と共存できるか	文学	17・18C ロンドンにおけるコーヒーハウスの歴史的役割
心理	オタクの心理～異常性とは何か～	教育	少年法改正の是非
経済	「多治見方式」は他の自治体にも応用できるか	看護	地域包括ケアにおける看護師の役割
看護	出生前診断はどうあるべきか	平成 27 年度	
教育	「キャリア教育」を柱とした「総合的な学習の時間」	看護	出生前診断の利用～中絶率を下げる効果はないか～
経済	「グローバル・グリーン・ニューディール」に関する考察	教育	いじめ問題の克服～「いじめ防止基本方針」の是非～
教育	メディア・リテラシー教育はどうしたら取り入れられるか		
文学	鎌倉新仏教の理念と現実		
文学	コーヒーハウスと上昇志向		
看護	臓器移植のこれから		
経済	知的財産権の国際統一は世界経済を発展させるか		

